

SARU MONOGATARI

サル物語

ロバート(♂)

C群第13代第1位に「ロバート」就任

2022年3月3日、C群の第13代第1位に「ロバート」が就任しました。

就任当日は、まるでロバートの門出を祝うかのように空は澄み渡り、3月にしては温かく気持ちのよい晴天となりました。

11時から開催した就任式では、高崎山キャラクターの「タッキー」がロバートの代理で辞令を受け取り、ロバート自身にはお祝いの果物が手渡されました。

ロバートがC群の第1位になった経緯については次のとおりです。ロバートは2018年以降C群で目立つようになり、2019年から2020年にかけてはB群とのケンカが勃発するとC群の先頭に立って仲間を守るように戦い、B群との小競り合いの際にはロバート1頭でB群のサルを追い散らすこともありました。

2021年当初は第5位であったロバートですが、同年の夏、C群第3位の「マルオ」がB群に接近するようになり、マルオはC群に稀に戻ることはあるもののB群と共に行動することが多くなりました。C群を出てB群に移るかどうかどうかというどっちつかずの行動をしていたマルオをロバートは群れから追い出し、その後、次々とC群の上位のオスがなくなったことで一気に順位をあげ、第1位にまで上り詰めました。

ロバートは、2021TNZ選抜総選挙のイケメン部門において第1位を獲得するといった、風貌にも恵まれているサルでもあります。年齢は推定11才で人間の年齢に換算すると30代前半です。これからさらに体格も大きくなり、風格も備わってくるといった年代ですので、今後のロバートの活躍に期待したいと思います。



ボスの風格がでてきたロバート

暑中お見舞い申し上げます。

ご意見・ご要望をおまちしています。



国立公園 高崎山自然動物園

〒870-0802 大分市神崎3098-1
TEL 097-532-5010 FAX 097-536-2500

E-mail: info@takasakiyama.jp
http://www.takasakiyama.jp/

高崎山通信

Takasakiyama Public relations magazine



国立公園

高崎山
自然動物園

2022.夏号

No. 2

70th Anniversary

写真募集中!!

皆さんの撮影したステキなお写真で表紙を飾っていませんか。
なお、お写真・データはお返しできませんので、ご了承ください。



スタッフブログ、フェイスブック、Instagram、Youtubeで
高崎山自然動物園のサルの出来事を紹介しています。

★大分市内の小学生・中学生は入園料無料です。学生証などを見せて入園してください。

ニホンサルの歯は上下合わせて32本あります。

◀ 恒例行事あり、珍行動あり、ハラハラドキドキの緊急事態!? ▶

子育て事情三面記事



令和4(2022)年の第1号赤ちゃんザルが生まれました 名前は平和を願う「ピース」くん♡

高崎山自然動物園では、毎年5月から8月にかけて出産シーズンを迎えます。

その年の第1号赤ちゃんザルは、公募で名前を付けています。今年も、3月19日から高崎山自然動物園の園内やメールなどで募集を始めました。ご応募いただいた名前の候補は、その年におきた出来事や流行語などがあがっていました。皆様から考えていただいた名前の候補を見ていると、第1号赤ちゃんザルの事を思いながら考えていただいていることが伝わって来る名前ばかりで、非常に嬉しく思いました。第1号赤ちゃんザルの名前募集の時期は、担当者にとって1年を振り返る良い時間でもあります。

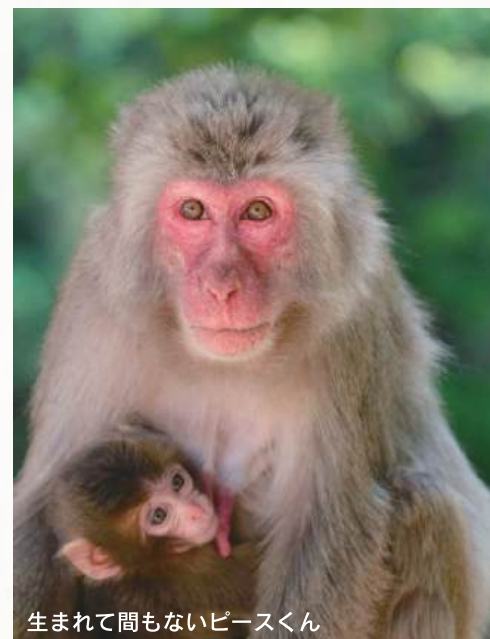
募集開始当初は、冬季五輪や数多くの流行にちなんだ名前で票が割れていましたが、日が経つにつれてダントツで多くなる名前がありました。その名前が「ピース」でした。

多くの方から「ピース」で応募があり、次点は「ヘイワ」でした。戦争等で不安な状況の中、平和を願いたいという思いが多いことがわかりました。



今年の第1号赤ちゃんザルのピースは、C群「ネウタ」の第9子です。母ザルのネウタは23才で高齢ザルです。これまで多くの子を育て、子育てに慣れているネウタは穏やかな表情でピースを見守っています。今年はB群C群あわせて150頭前後の誕生となりそうです。ご来園の際は高崎山自然動物園のホームページなどでサルの出現状況をご確認のうえ、お越しください。

◀母ザルのネウタに甘えるピースくん



生まれて間もないピースくん

子育て中のオスザル「シカオ」



ニホンザルには本来「父親」という存在はありません。なぜならサルには夫婦関係はなく、オスザルは自分の子どもがどの子か分からないからです。そのため、理由もなくオスザルが特定の子ザルの面倒を見ることはほとんどありません。

4月頃からB群第9位の「シカオ」が、群れが山から出現する時や園内で過ごしている時に、いつも同じ1頭の子ザルを抱きかかえて保護しています。どういう理由でこの子ザルだけを特別に世話をするのかは分かりません。迷子になったのか、母ザルがいなくなったのか、その他の理由なのか、これから観察を続けていきたいと思っています。



子ザルの世話をするシカオ

サル寄せ場での出産!?



よく頑張りましたスライム母さん

2022年5月14日(土) ■午後3時25分

「様子に変なサルがいる。」とお客様より連絡がありました。駆け付けると、陣痛が始まったメスザルがいました。名前は「スライム」といい、2年前に第1子を出産したサルでした。

■午後3時30分

スライムはお寺の屋根の上でしきりに陣痛の痛みを耐えては、横たわって体を休め、少しすると身の置き所がないというように動き、また小休止という状態を繰り返していました。そして、徐々に陣痛の間隔が短くなって、踏ん張ってはいきむことを繰り返すようになり、いきむ度に尻尾をブルブルと震わせて痛みを耐えていました。

■午後3時52分

ようやく産道から赤ちゃんの頭が見え始めました。あと少しです！スライムが力を振り絞り、いきむ度、赤ちゃんの頭がはっきりと見えるようになりました。スライムはしきりに赤ちゃんの頭を気にするように触り、引っ張り出そうとしているようでした。

■午後3時59分

生まれました！赤ちゃんザルの元気な鳴き声が上がるとすぐにスライムは我が子を抱え、赤ちゃんの全身を何度も愛おしそうに舐めました。

その後、休むことなく、生まれたばかりの我が子とへその緒で繋がっている胎盤を食べてしまいました。産後の疲れも癒えないまま子育てのスタートです。もちろん、誰の援助もありません。群れで暮らす野生のニホンザルの逞しさを目の当たりにし感動しました。

ちなみにこの出産シーンは、動画投稿サイト「ユーチューブ」にて5月19日に投稿しています。是非、ご覧ください。 <https://www.youtube.com/watch?v=gXq75N1xo50>

